

# 台風16号等による埋立エリア地下水位の経過と 港湾内の放射性物質濃度について

2016年9月29日



## 東京電力ホールディングス株式会社

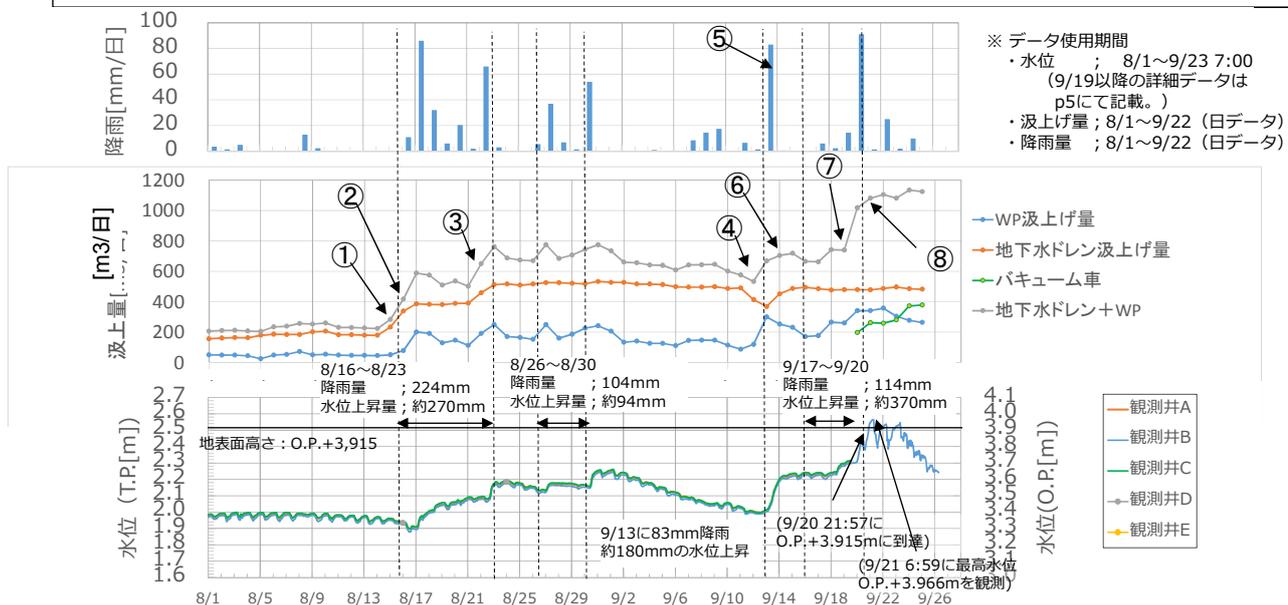
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

### 台風7号以降の対応状況



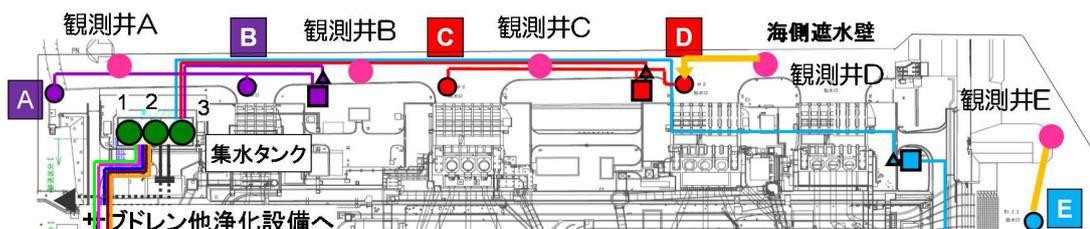
- 8/16から9/24にかけて、台風等により累計約620mmの降雨があり、サブドレン・地下水ドレン・ウェルポイントにて8/15～9/25に約49,000m<sup>3</sup>の地下水を汲み上げた。
- 9/20～23にかけて、海側護岸付近の地下水位が地表面の高さまで上昇したが、地下水の噴出は確認されていない。降雨の影響により、排水路のCs137濃度が上昇しているが、過去に同程度の降雨があった際と大きな差異はない。排水路の濃度上昇に伴い、港湾海水の放射性物質濃度上昇も確認されているが、港湾口では告示濃度限度を大幅に下回っている。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

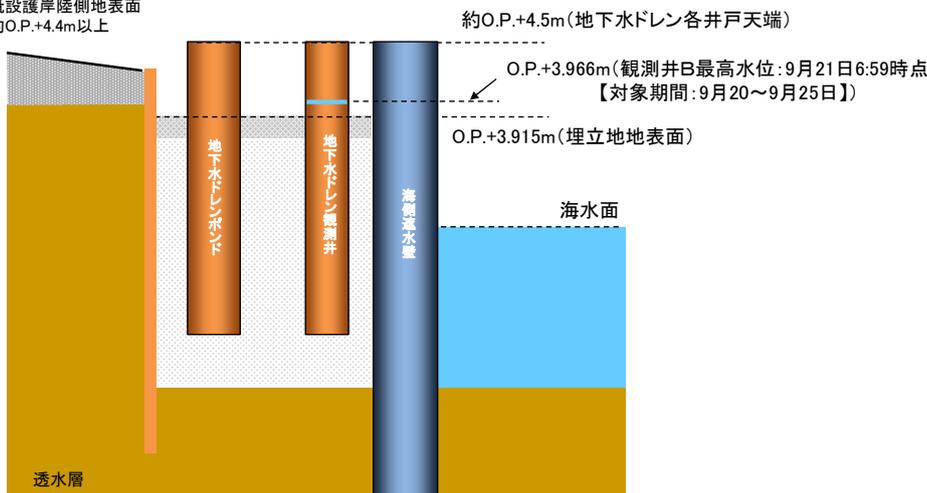
無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

【井戸配置図】



【断面図】

既設護岸陸側地表面  
約O.P.+4.4m以上



海側遮水壁 (2015年11月21日撮影)



海側遮水壁  
鋼管矢板天端の  
継手部分  
(O.P.+3,915m)

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

【参考】水位低下に向けた対応状況

- ① 8/15 : 台風対策としてポンドAおよびBの設定水位を下げ、ポンド5箇所ともH値O.P.+2.75m～L値;O.P.+2.4mに変更。観測井Eを稼働。
- ② 8/16 : 観測井D稼働。ポンドD流量調整 (+40m<sup>3</sup>/日)。観測井E流量調整 (+40m<sup>3</sup>/日)。
- ③ 8/22 : 観測井Eの流量調整を実施し、汲上量を約100m<sup>3</sup>/日から約210m<sup>3</sup>/日に増加。上記設定を維持するものの降雨により水位は上昇。
- ④ 9/12 : 降雨の少ない状況が続き、埋立エリアの水位がO.P.+3.4m程度まで低下したこと、およびポンドCの放射性物質濃度が増加傾向のため、ポンドCの設定を変更。  
(H値O.P.+3.15m～L値;O.P.+2.95m)  
観測井Eの流量調整実施 (-100m<sup>3</sup>/日程度)。
- ⑤ 9/13 : 降雨量83mm (1F)。(8/16～9/13の累積降雨量 (1F) 465mm)
- ⑥ 9/14 : 9/13の降雨により水位が上昇したため、ポンドCの設定を変更。  
(ポンド5箇所ともH値O.P.+2.75m～L値;O.P.+2.4m)
- ⑦ 9/19 : ウェルの設定水位を3箇所とも100mm下げて汲上量を増大。  
ウェルA : H値O.P.+3.1m L値O.P.+3.0m,  
ウェルBおよびC : H値O.P.+3.7m L値O.P.+3.6m]
- ⑧ 9/20～ : 観測井A, Cからバキューム車を用いて汲上を実施。  
(8/16～9/20までの累積降雨量 (1F) 579mm)  
[汲上量、観測井A ; 120m<sup>3</sup>、観測井C : 77m<sup>3</sup>]

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

